

すべての子供の居場所づくりについて

資料ウ

1 これまでの学校の様子は・・・

増加する不登校児童生徒
増加する支援が必要な子供
今まで通りにいかず、困惑する教職員

子供も、
教職員も
困った！



2 現在の取組

○学校全体が校内教育支援センター

- ・全教職員と方針を共通理解
- ・多様な子供に対応する部屋の環境整備
- ・自己決定・自己選択できる支援
- ・SC、SSW、教育センター等との連携
- ・「困った・助けて」が言える教室・職員室の雰囲気づくり

○子供たちが「学びたい」と思える授業へ

- ・となみ授業スタンダードⅢの共有
- ・個別最適な学び・協働的な学び、家庭学習にタブレット端末を効果的に活用
- ・異年齢集団で話し合う全校道德の実施
- ・R7年度はスタンダードⅢからⅣへ



【安心して過ごすことができる校内での居場所】



【授業におけるタブレット端末の効果的な活用】



【あたたかみがあり、何でも言い合える職員室】

○学校外での多様な居場所づくり

- ・教育支援センター「ひよどり」の充実
(1日の過ごし方を自己決定、学校とのケース会議)
- ・学校や保護者へのフリースクールの周知
(フリースクール説明会・情報交換会)



【フリースクール情報交換会】

となみ授業スタンダードⅢ

R6.3

砺波市教育センター

【自立した学習者を育てるために】

- ① 誰一人取り残さない「居場所」のある教室
- ② 考えの深まりを自覚したら、メモ（ノートまたはタブレットに）
- ③ 振り返りによる自分の学びの言語化

主体的・対話的で深い学びを実現するポイント								
	(主体的・対話的)		(深い学び)					
導 入	考えてみたいと思える学習課題の提示 【学習の見通しをもつ】 既習内容（系統性）や前時の確認、類似経験の想起、考える視点の提示 ・約7割の子供が「解けそうだ」と思えるようにする。 【ゴールの姿をイメージできる】 ・学習課題を具体的な行動目標で表す。 例：「～について考え、〇〇にまとめよう」「～と～を比べ、説明しよう」							
	個の学びを深めるための場の工夫 自分の考えをもつための「静の時間」とアウトプットする「動の時間」を効果的に組み合わせる。 <table><tr><th>個 別</th><th>小集団</th><th>全 体</th></tr><tr><td>何を考えさせるのかを明確にする。 ・机間指導で状況を確認する。</td><td>話合いの視点・方法を明確にする。 ・全体を見渡して、必要な小集団に支援する。</td><td>教師は、ファシリテーターとなる。 ・考えを比較・分類・整理し、構造的な板書で可視化する。</td></tr></table>		個 別	小集団	全 体	何を考えさせるのかを明確にする。 ・机間指導で状況を確認する。	話合いの視点・方法を明確にする。 ・全体を見渡して、必要な小集団に支援する。	教師は、ファシリテーターとなる。 ・考えを比較・分類・整理し、構造的な板書で可視化する。
個 別	小集団	全 体						
何を考えさせるのかを明確にする。 ・机間指導で状況を確認する。	話合いの視点・方法を明確にする。 ・全体を見渡して、必要な小集団に支援する。	教師は、ファシリテーターとなる。 ・考えを比較・分類・整理し、構造的な板書で可視化する。						
ま と め ・ 振 り 返 り	まとめ・振り返りの時間の確保 【ま と め】 本時の学習課題に対する学びのまとめ ・子供の言葉を生かす。短時間でまとめる。 【振り返り】 学習内容や学び方、家庭で学習したいこと等の振り返り（5分） 例：「〇〇さんの考えを聞いて、違う視点に気付いたよ」「〇〇さんの学び方が参考になったよ」「家でもう少し難しい問題にチャレンジしよう」		③ 考えの深まりをメタ認知する振り返り 例：導入時（前時）の考えから変容したことを捉えられるようにする。					

【心理的安全性の高い職員室】

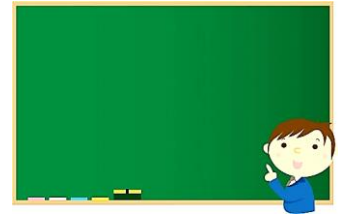
- ① 居場所があり、あたたかみを感じる職員室
- ② 分からないことを自由に相談できる職員室

授業の心得

赤番号：内容の変更

【子供が落ち着く環境】

- ① 教室前面の掲示物は**必要最小限**にしています。
- ② **黒板全面**が使えるようになっています。
- ③ 子供の机の中・横は、必要な物を**精選**しています。
- ④ 黒板前に教卓等を置いていません。
教師の机上・棚等は、**整然**としています。
- ⑤ 廊下等は、**すっきり**しています。



【教師の大切な役割】

<導入>

- ⑥ **テンポよく短時間**で行っています。※前時の確認、前時の適用問題の活用、映像の活用

<学び合い>

- ⑦ 子供が必要に応じて、**自由に席を離れて**相談できるようにしています。
- ⑧ 個別指導しながらも、**絶えず子供たち全体**を見ています。

※机間指導で立ち止まる時間は、原則10秒程度

- ⑨ **子供同士が関わる工夫**をしています。

※発表者の考えを別の子供が説明 ※学習形態の工夫（3～4人のグループが望ましい）

- ⑩ 発言に対する周囲の子供の反応を**観察**し、タイミングよく板書しています。
- ⑪ 板書は見やすい文字の大きさと、**端的**に書いています。

<まとめ・振り返り>

- ⑫ 子供の言葉で学習の成果を短時間でまとめます。**タブレット等**を用いて振り返る時間を**確保**し、**相互承認**につなげます。

<授業全般>

- ⑬ **笑顔**を心がけ、子供と目で**キャッチボール**をしています。
- ⑭ 声や表情に**変化**をつけ、**丁寧**な言葉で話しています。
- ⑮ 無駄な言葉を削る**努力**をしています。

※タイムマネジメントの意識、一問一答の防止

- ⑯ 「**間**」を意識した話し方を心がけています。

※全ての子供の思考時間の確保

- ⑰ 気になる子供へ**継続**して声かけをしています。

※「声かけがないこと＝してもよい」というメッセージ



【GIGA に関する手立て】

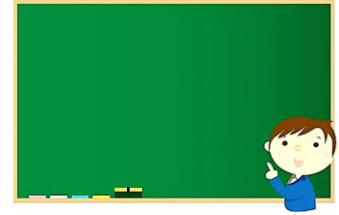
- ⑱ タブレットは机の横等の近くにあり、子供自らが**必要に応じて**使えるようになっています。
- ⑲ ソフトの操作等、子供同士で**教え合う関係**をつくっています。
- ⑳ 黒板と電子黒板、ノートとタブレットの効果的な**使い分け**を心がけています。
- ㉑ タブレットを利用して、一人一人の**考え**を把握しています。

R7.02

授業の心得

【子供が**落ち着く環境**】

- ① 教室前面の掲示物は**必要最小限**にしています。
- ② **黒板全面**が使えるようになっています。
- ③ 子供の机の中・横は、必要な物を**精選**しています。
- ④ 黒板前に教卓等を置いていません。
教師の机上・棚等は、**整然**としています。
- ⑤ 廊下等は、**すっきり**しています。



【教師の大切な**役割**】

<導入>

- ⑥ **テンポよく短時間**で行っています。※前時の確認、前時の適用問題の活用、映像の活用

<学び合い>

- ⑦ 子供が**必要に応じて**、席を離れて相談できるようにしています。
- ⑧ 個別指導しながらも、絶えず**子供たち全体**を見ています。

※机間指導で立ち止まる時間は、原則10秒程度

- ⑨ **子供同士が関わる工夫**をしています。

※発表者の考えを別の子供が説明 ※学習形態の工夫（3～4人のグループが望ましい）

- ⑩ 発言に対する周囲の子供の反応を**観察**し、タイミングよく板書しています。
- ⑪ 板書は見やすい文字の大きさと、**端的**に書いています。

<まとめ・振り返り>

- ⑫ 子供が**自分の言葉**で学習の成果を短時間でまとめます。タブレット等を用いて振り返る**時間を確保**し、相互承認につなげます。

<授業全般>

- ⑬ 笑顔を心がけ、子供と**目でキャッチボール**をしています。
- ⑭ 声や表情に**変化**をつけ、丁寧な言葉で話しています。
- ⑮ 無駄な言葉を削る**努力**をしています。

※タイムマネジメントの意識、一問一答の防止

- ⑯ 「**間**」を意識した話し方を心がけています。

※全ての子供の思考時間の確保

- ⑰ 気になる子供に対して**さりげなく支援**をしています。



【タブレット等の**有効活用**】

- ⑱ タブレットは机の横等の近くにあり、子供自らが**必要に応じて**使えるようになっています。
- ⑲ ソフトの操作等、子供同士で**教え合う関係**をつくっています。
- ⑳ 黒板と電子黒板、ノートとタブレットの効果的な**使い分け**を心がけています。
- ㉑ タブレットを利用して、一人一人の**考え**を把握しています。
- ㉒ タブレットを利用して、**子供同士が考え**を共有できるようにしています。